

「国民負担率」

去る2月23日、財務省は、2018年度予算における国民負担率が、2017年度実績見込みから0.2ポイント低下の42.5%になる見通しであると発表しました。

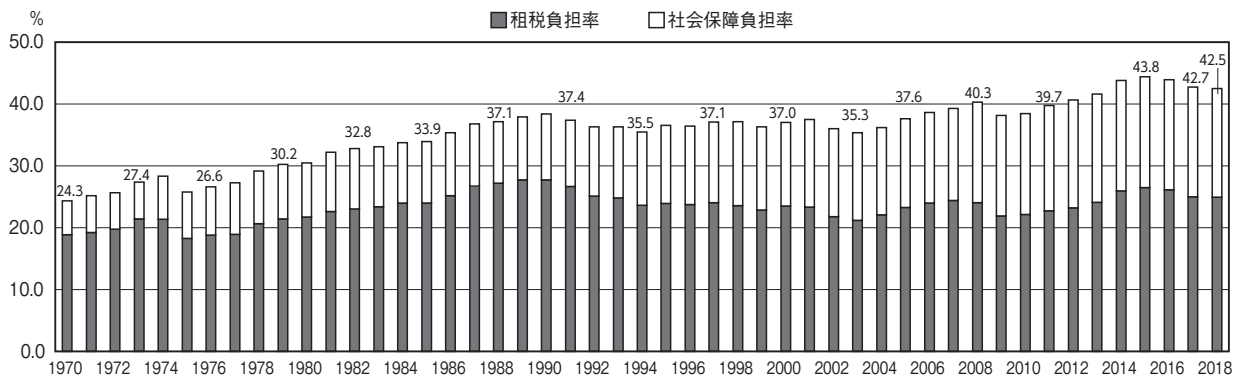
1. 「国民負担率」とは？

国税や地方税の租税負担と、年金や健康保険の保険料など社会保障負担の総合計額が国民所得に占める割合のことで「(租税負担額+社会保障負担額)÷国民所得」で表されます。国民全体の公的負担の重さを示す経済指標ですが、政府活動の相対的規模を表す指標でもあります。

2. わが国の国民負担率は？

1970年以降の国民負担率の推移を表したのが図1です。1970年代は25%～30%前後でしたが、その後次第に上昇し、2008年度に初めて40%を突破したあと、ここ数年は40%前半となっています。他の国と比較すると、米国33.3%、韓国37.8%などよりは高いものの、英国46.5%、ドイツ53.2%、スウェーデン56.9%、フランス67.1%、ルクセンブルグ87.2%（いずれも2015年）などよりは低く、「高福祉・高負担」の国が多いヨーロッパ諸国で高い比率となっています。

図1 わが国の国民負担率推移



財務省 HP データより当研究所作成

3. 「隠れた」国民負担にも注意！

実際の租税負担額と社会保障負担額に、将来の負担となる「財政赤字」を加えて計算した比率を「潜在的な国民負担率」といいます。2018年度のわが国の潜在的な国民負担率（見通し）は48.7%と、50%に近い数字となります。2010年代前半には50%を超えており、低下傾向にあるとはいえ、高い数値となっています。図1をみると、租税負担率は年によって増減がある一方、社会保障負担率は拡大傾向にあると言えます。わが国の高齢化は諸外国と比べ著しいスピードで進展しており、社会保障負担が今後ますます増加していくことが確実な状況です。今後の（潜在的な）国民負担率に注目していく必要があります。

閑話ひとつ

- ▶ 「特撮の神様」と呼ばれた故・円谷英二氏の生まれ故郷である須賀川市は、ウルトラマンの故郷「M78星雲光の国」と姉妹都市提携を結び、仮想都市「すかがわ市M78光の町」を立ち上げています。
- ▶ ウルトラマンといえば、昭和40年代から現在に至るまで、子どもたちを熱狂させているヒーローであり、私もリアルタイムや再放送で怪獣との戦いに夢中になりました。
- ▶ おじさんになって昭和のシリーズをCS放送で視ると、番組にはさまざまなメッセージが盛り込まれ、実は大人向けでもあるなど感じます。是非、お子さまやお孫さんと一緒に昭和40年代の特撮技術の高さを楽しんでみてはいかがでしょうか。
- ▶ そんなウルトラマンも、シリーズ第6作「ウルトラマンレオ」では、オイルショックの影響によるギャラ削減のため、隊員が基地ともども宇宙人にやられてしまうなど衝撃の展開になりました。ヒーローも不景気には勝てないようです。子どもたちを悲しませないためにも、経済政策は非常に重要です。（HT）